

おおぶレインボープラン

～総合的な長期欠席者支援

によるWell-beingの向上～

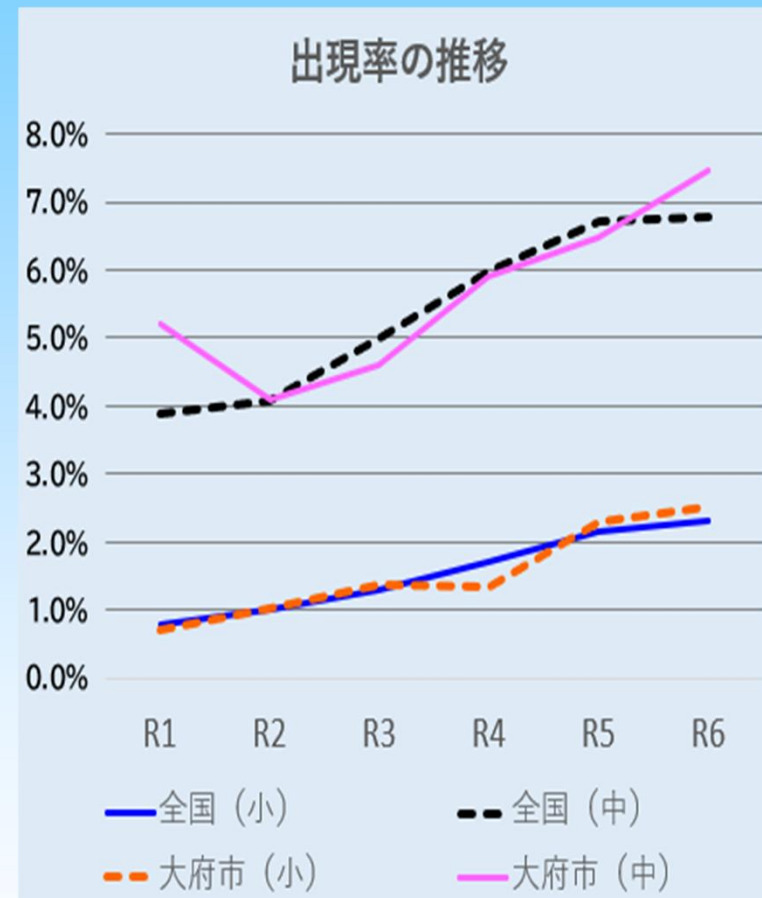


現状と課題

【現状①】

1. 長期欠席の状況

			R1	R2	R3	R4	R5	R6
全国	小学校	出現率(%)	0.8%	1.0%	1.3%	1.7%	2.1%	2.3%
		長期欠席児童数(人)	53,350	63,350	81,498	105,112	130,370	137,704
	中学校	出現率(%)	3.9%	4.1%	5.0%	6.0%	6.7%	6.8%
		長期欠席児童数(人)	127,922	132,777	163,442	193,936	216,112	216,266
大府市	小学校	出現率(%)	0.7%	1.0%	1.4%	1.3%	2.3%	2.5%
		長期欠席児童数(人)	40	60	79	78	133	145
	中学校	出現率(%)	5.2%	4.1%	4.6%	5.9%	6.5%	7.5%
		長期欠席児童数(人)	137	110	125	162	177人	206
	小中合計			177人	170人	204人	240人	310人

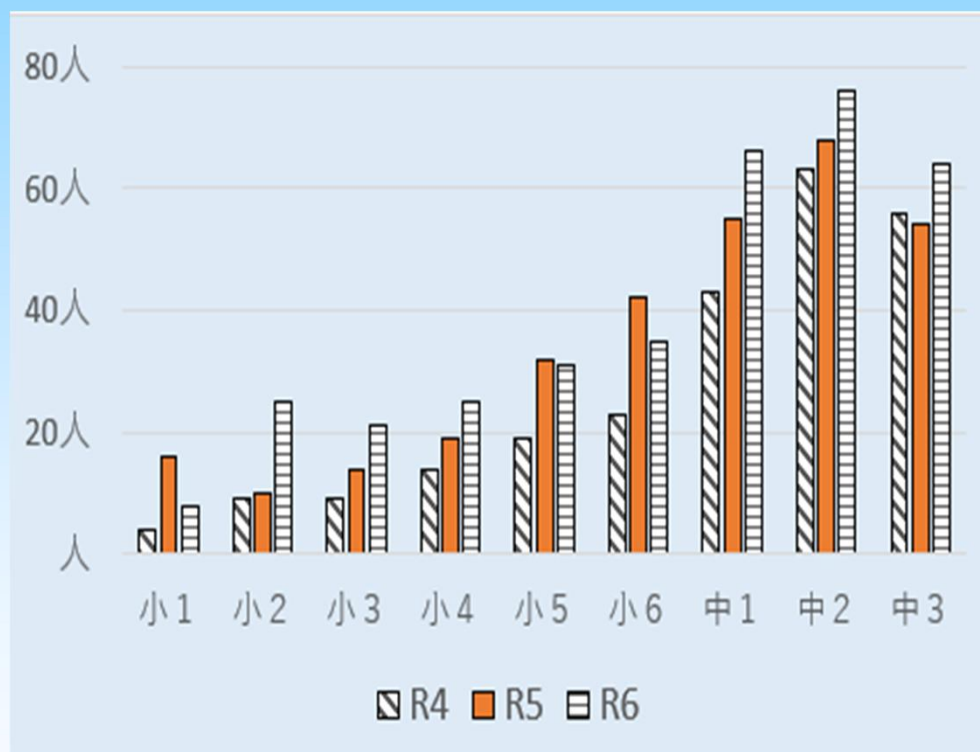


➡ 大府市 - 小中学校ともに年々増加 (特に出現率は全国平均より高くなっている)

【現状②】

2. 長期欠席の学年別の状況

			R4	R5	R6	R5⇒R6増減率
大府市	小学校	1年生	4人	16人	8人	50%
		2年生	9人	10人	25人	250%
		3年生	9人	14人	21人	150%
		4年生	14人	19人	25人	132%
		5年生	19人	32人	31人	97%
		6年生	23人	42人	35人	83%
	中学校	1年生	43人	55人	66人	120%
		2年生	63人	68人	76人	112%
		3年生	56人	54人	64人	119%



多くの学年で年齢が上がるたびに増加、中2⇒中3は減少傾向

【課題】

長期欠席者への総合的な支援体制の更なる整備

1. 小学校の長期欠席者の増加
2. 同世代とのコミュニケーションに苦手感
⇒ 自己肯定感の低下・学校生活への不安

プランの目的・目指す成果

学校内外での環境づくりや各種相談体制を一層充実し、児童生徒の自立と社会参加を図る

1. 居場所づくりの拡充

学校内外の居場所をより身近に・安心に

2. 相談支援体制の拡充

高まる需要への切れ目のない支援

3. 長期欠席への理解の広がり

多様な在り方や当事者の心情への理解

「おおばレインボープラン～総合的な長期欠席者支援によるWell-beingの向上～」

7色の支援の全体図

☆ 新規・拡充事業
● 既存事業

②学校外における居場所の充実

☆ 第二教育支援センターの整備（令和8年10月開設予定）

- 夜間中学校での学び直しの支援（義務教育課程で長期欠席状態にあった方の教育機会の確保）
- 民間フリースクール等の授業料の半額補助（1月あたり上限2万円）
- レインボーハウスでの学校復帰・社会参加支援



⑤地域における活動との連携

- 事業提示型協働事業を活用した市民活動団体『～教育の機会をつなぐ～三つ葉』との連携（月1回の児童生徒向け講座と保護者向け座談会を開催）



③ICTを活用した 相談支援・居場所の充実

- メタバースでの教育・相談支援
- タブレットを活用したオンラインでの授業参加



①学校内における居場所の充実

- 校内教育支援室及び支援員の配置（全小中学校）
- 養護教諭と養護教諭補助員の配置による保健室の全校2人体制
- 校内教育支援室の校内フリースクール化に関する調査・研究



⑥切れ目のない支援に向けた 関係機関との連携・情報交換・研究

- 未就学段階から中学校卒業後までの情報連携（地域活動支援センター等の支援先への接続）
- 長期欠席者教育支援会議の開催
- 長期欠席者事例研究会による教員等の自主的な研究活動

④相談支援体制の充実

☆ スクールソーシャルワーカーの増員による相談支援の拡充（4人→5人）

- スーパーバイザーによるスクールソーシャルワーカーへの指導・助言（支援体制の充実）

☆ スクールカウンセラーの増員による相談支援の拡充（レインボーハウス・第二教育支援センター）



⑦長期欠席への理解の促進

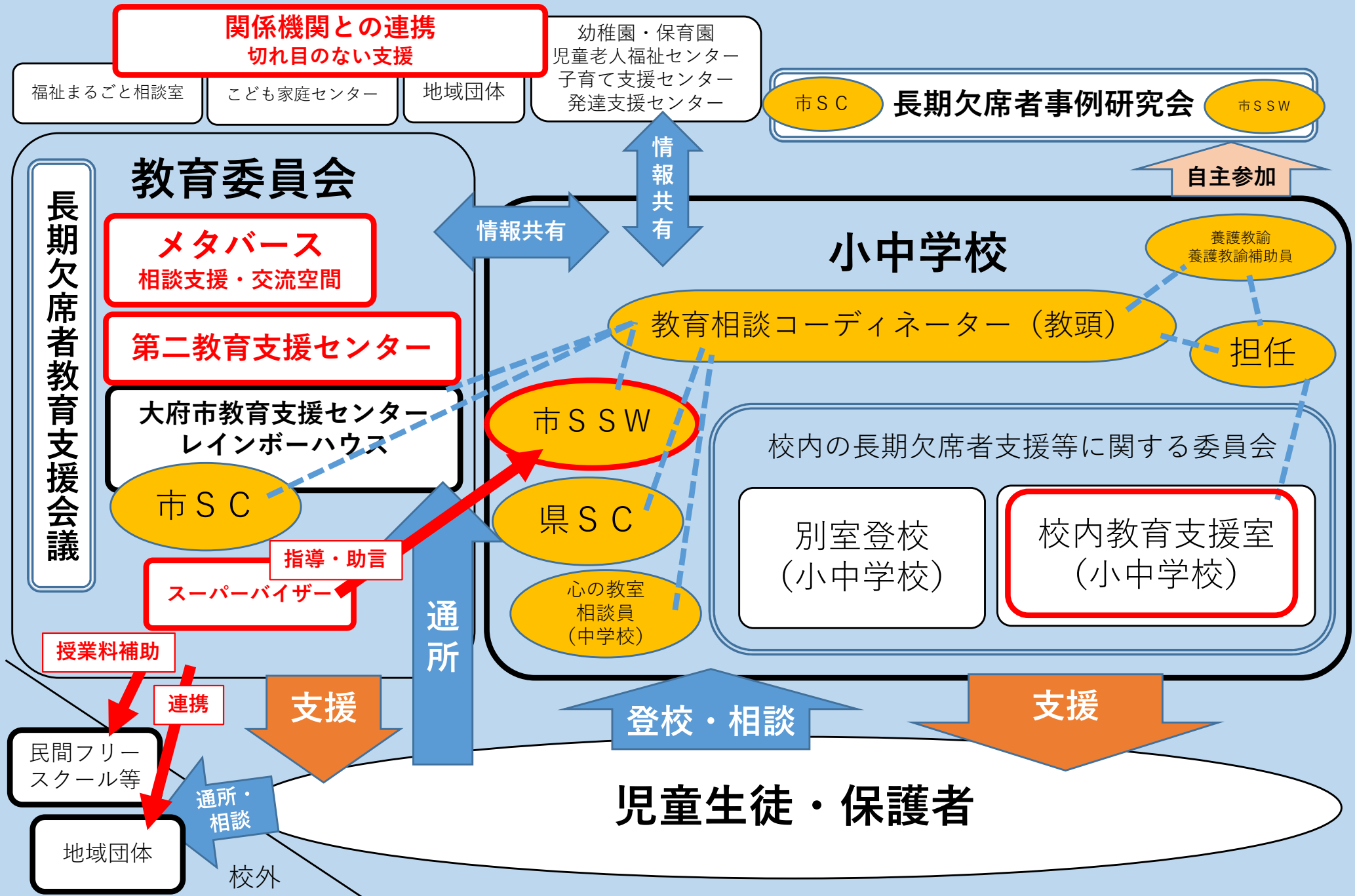
- 虹の架け橋サポーターによる啓発活動（SNS等で市の取組をPR、小学校での講演会等を開催）
サポーター：漫画家 棚園正一氏



長期欠席者支援の連携図

----- 連携

長期欠席児童生徒の自立と社会参加を促進し、自己肯定感を高め、幸せを身近に感じられるよう連携



長期欠席児童生徒への7色の支援① ～学校内における居場所の充実～



◆ 校内教育支援室の設置拡大・支援員の配置

児童生徒が安心して学ぶことのできる場として、中学校に加えて、全小学校で開設。各支援室には支援員を1人ずつ配置。

◆ 養護教諭と養護教諭補助員の配置による保健室の全校2人体制

県の養護教諭の配置が1人のみの学校へ市独自に養護教諭補助員を配置。全ての小中学校の保健室を2人体制とし、児童の心身の健康管理の充実を図る。

◆ 校内フリースクール化に関する調査・研究

校内教育支援室について、自己肯定感を高め、社会的自立を図る場としての機能を持つことができるよう、校内フリースクール化に関する調査・研究を進める。

長期欠席児童生徒への7色の支援② ～学校外における居場所の充実～



◆ 第二教育支援センターの新設（令和8年度10月予定）

教育支援センター「レインボーハウス」の利用者数の増加や通所距離等を踏まえて、新たに「健康増進・交流拠点施設」との複合施設として「第二教育支援センター」を整備。

◆ 夜間中学校での学び直しの支援（令和7年度～）

義務教育課程で長期欠席等の状態にあった方に対する教育の機会を確保するため、夜間中学校での中学課程の学び直しを支援。

◆ 民間フリースクール等を利用する児童生徒への支援（令和6年度～）

様々な居場所を保護者ととともに自主的に選択できるように、民間のフリースクール等の授業料の半額、1月あたり上限2万円を補助。

◆ 校外教育支援センター「レインボーハウス」の設置

長期欠席児童生徒を対象に、学校復帰・社会参加に向けた支援。

長期欠席児童生徒への7色の支援③ ～ICTを活用した相談支援・居場所の充実～

◆ メタバースでの教育・相談支援（令和5年12月～）

直接面会しての相談を不得手とする児童生徒への対応や、新たな居場所づくりに向けた環境整備の一つとして、メタバース（ネット上の3次元仮想空間）を利用した学習支援・相談支援を行う。



◆ オンラインによる授業参加

児童生徒に1人に1台整備したタブレットを活用した、自宅・別室等での授業参加。



長期欠席児童生徒への7色の支援④ ～相談支援体制の充実～



◆ スクールソーシャルワーカーの増員による相談支援の拡充(令和8年度～)

スクールソーシャルワーカーを4人から5人に増員し、相談支援体制を一層拡充する。

◆ スクールソーシャルワーカーによる支援体制の充実(令和6年度～)

相談内容の多様化・件数増加を受け、学識経験を有し、より専門的な立場のスーパーバイザーから指導・助言を受け、支援体制の質を高める。

◆ レインボーハウスに「スクールカウンセラー」を配置

公認心理士等が平日各1名担当。児童生徒、保護者等への相談支援

◆ 第二教育支援センターに「スクールカウンセラー」を配置(令和8年10月～)

公認心理士等が週3日各1名担当。児童生徒、保護者等(就学前含む)への相談支援

長期欠席児童生徒への7色の支援⑤ ～相談支援体制の充実～

◆ 事業提示型協働事業を活用した市民活動団体との連携 (令和5年11月～)

地域で長期欠席者への教育等支援や保護者への相談支援を実施している団体「～教育の機会をつなぐ～三つ葉」と連携し、事業提示型協働事業（市民と協働で実施することで効果を高められる事業）として、レインボーハウスでの月1回の児童生徒向け講座と保護者向け座談会を開催。

レインボーハウスを利用する児童生徒の活動を充実させ、保護者が気軽に話すことのできる場を用意するとともに、団体の育成を図り、支援の担い手を増やしていく。



長期欠席児童生徒への7色の支援⑥

～切れ目のない支援に向けた関係機関との連携・情報交換・研究～



◆ 未就学段階から中学校卒業後までの情報連携

こどもに関する切れ目のない支援のため、未就学段階から中学校卒業後までの情報連携を図る。

◆ 「長期欠席者教育支援会議」の開催

各校の状況に関する情報交換。医師等の専門家からの指導・助言。

◆ 「長期欠席者事例研究会」の開催

教員等の自主的な研究活動。医師等の専門家からの助言。

長期欠席児童生徒への7色の支援⑦ ～長期欠席への理解の促進～

◆虹の架け橋サポーターによる啓発活動（令和7年度～）

令和6年度に任命した虹の架け橋サポーターの啓発活動を通して、地域や学校での寄り添う気持ちの醸成を図る。

令和8年度から小学校での講演会を開催予定。

【虹の架け橋サポーター】
漫画家 棚園 正一 氏

